

紙 罪 案 起

大正六年三月二

日起案

三月六

日發付

發付後起

大臣



次官



參事官



副官

艦政局長



第二課長



第四部 第三部 副官



軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
								六三五				三月六日	三月六日

大正六年三月六日

海軍大臣

舞鏡司令官

軍艦五隻の電氣煖爐新設

軍艦五隻の電氣煖爐新設 一個新設方

官房第六七五號

Handwritten signature

6.3.A 技三接



3.3 技三接

3.3 技三接

0972



3.2



93.3

解工第七号ノ六ノ一ヲ以テ其ノ付工廠ノ海軍技術本部ニ
送付スルニ方案ヲ依リ工事施行セシメ
右訓ノ云々

(終)

森原 納

0973

大正

海軍

兵部

工務

五

大正

吾妻艦長

和藤友三郎殿

平時無線電信室電氣暖爐増設相成度件

本艦平時無線電信室ハ前部艦橋甲板ニ在リテ

欽鉸ノ圍セラレ所寒ヲ設備ナキヲ以テ嚴寒ノ候ハ

室内温度降下シ徹夜ノ當直勤勞ニ堪ヘ難ク且フ平

指ヲ曝露スル發受信ニ差支フルコト屢々アルニ付ハ十ホール

第一ノ支障ヲ生ズルコトナク尚室内ノ濕潤ヲ乾燥セ

テ以テ電信用諸機具ノ良態ヲ保テ得ベシ然レテ本

装置ニ要スル電流半五アンペア内外ニテ殊ニ平時用

第三部

十二番

海軍

五

51211

0974 32

紙用箋附

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

大正
海軍
和藤
友三郎

艦政局

十一月八日

五美第二六九號

大正十一年十一月廿七日

海軍大臣 加藤友三郎殿

平時無線電信機

本艦平時無線電信機

鉄飯

室内温度降下シ微

指曝露スル被受信

第一号シヤンパヤル内外

右ノ故障ヲ生ズルコ

ト以テ電信用諸機具

装置ニ要スル電流十五アンパヤル内外ニテ殊ニ平時用

第三部 第四部 副官

司令長官

工務長

副官

海軍部

工務士任

五美第二六九號

五美第二七四號

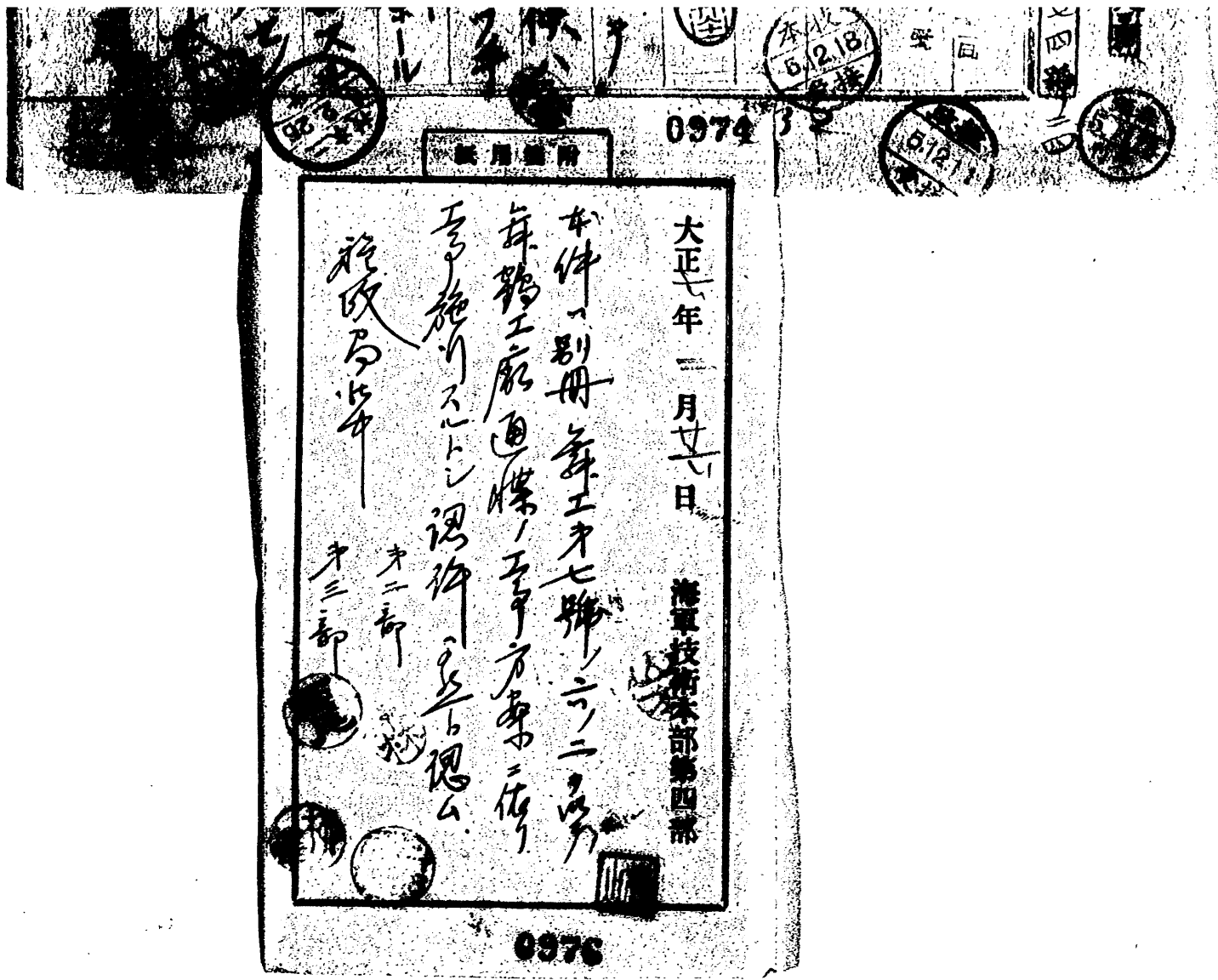
218

5/21

5/11

0858

0975



0974

紙用書附

大正七年二月廿一日

海軍技術本部第四部

本件ハ別冊年工才七號ニシテ
年鶴工廠直轄ノ工才方東ニ依リ
手施シスルニ認許シタルニ
認取ル也

才三部

才二部

0976

無線電信室ニ備ヘントスルモヤレハ艦内所要ノ電力ニハ
不足ヲ生ズルコトナク平常使用ノ發電機ヨリ供給
得ラレ又据付ニ要スル工事ハ其直下ニ存設シアル上
中甲板白熱電燈用本線ヨリ分岐セシムレハ比較的
容易ニシラ且ソ電動天流機用電路トハ全然獨立
ノモトナリ該信ニモ何等影響ヲ及ボストナキコト付
御認許相成度

右申上
ス

(終)

軍務局

水測量第二二號

大正六年三月七日

老龍海軍部
電報
三月十日

丸橋水路部測量科長

松越軍務局員殿

測深器据付工事之圖紙件

大東島大洋航路、測深器探礁等測量、為係航路測
深器、膠州へ据付、之必要有之、近日、吳在泊、今船へ
發送可致、之、据付工事、方可然、御取計、相成

度

右照會目入

第八〇

海

軍

(終)

三月七日

軍務局 謹啓

0978

海録目

一
下

艦政局長

軍第八〇號

軍務局長

吉

第一課長

局員

吉

吉

大正六年

三月九日起案
三月十日發付濟

軍務局長

吳鎮參謀長宛

第二課

吉

吉

運送船膠州ニ測深器据付ノ件

運送船膠州ハ來ル四月ヨリ大東島、大洋

航路ノ測量ニ從事セシメラルヘキ内定ノ處

同方面、鐘測、探照等ヲ行フ為同

船ニ汽機測深器据付ノ必要有之類ニ

テ不日水路部、該測器ヲ同船ニ送

軍事施行ノ順序ヲ軍務局長ニ
示知都令了ノ旨ヲ注意了ル旨

吉

兵艦

0980

濟

二
6.18

6.6.18
受接

紙用箋附

何ト水了
ルニ給ソ
ヤ

洋行

船票

0980

漢字

二 6.18

6.6.18

紙 用 箋 附

本件其由田路(以)照合(其)是(于)工
 了(少)海(以)し(其)用(ノ)是(三)版(其)の
 水鏡部(レ)要(求)し(来)る(に)事(ナ)り
 ト(引)り
 何(レ)水鏡部(ヲ)一(連)合(シ)行(ク)
 決(定)一(部)一(部)

艦政局

0981

海軍

送スヘキ旨通知越
取計相成度
付工事方可然御
右照會ス
着荷ノ上ハ据

終

(模本納)

0982

起案郵紙

大正十六年十月十一日起案
 起案者 捺印
 十月五日發付
 發付掛 捺印
 發付後起 案者捺印

(主務) 艦政局長

大臣 副官

次官 參事官

技術本部長

機關局長

經理局長

第三課 代

第一課

第五課

第二課

五船艦

第五部
 第三部
 第四部
 局員
 第二課長

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
													受月日
													發月日

大正十六年十月五日

大

臣

三月十日准達橫廠工第一三八號上申軍艦金剛鐘
 室焚火部新設一件認許
 官房第七五三號

6.11.2 受接
 6.10.25 受接
 6.10.24 受接
 6.10.20 受接
 6.10.19 受接

0983

1020

											支辨トシ請亦リ修テ別途配付ス。	費ハ軍事機具造
											別紙而面貳条添	船造及修理費 <small>造及材料物工事費</small> 修理

0984

藤原 納

艦政局

0985

技術本部

三月十一

第...番

参録長

5.73

3.28

3.15

15

5.10

6.31

8.14

二月二日

海軍大臣

加

友

三

郎

殿

廣

須

賀

海

軍

工

廠

長

田

中

別紙

第...番

第...番

第...番

第...番

第...番

第...番

第...番

第...番

設方御認許相成度

右 上 申

第...部

第...部

第...部

第...部

第...部

第...部

第...部

技製圖

第...部

一葉

四葉

葉

葉

葉

技製圖

第...部

海

軍

艦政局

0985

三月十日

紙田 露 解

播磨三第

参謀長

經理部長

大権閣長

海軍大臣

第一課

第二課

6.5.23

5.3.28

6.3.15

6.3.15

6.5.10

6.2.10

3.14

日 海軍閣將校

副官

三 録



官房第七の三

五 技 製 圖

制 部 員

海軍増設表

海軍

海軍

海

5.12

軍

吉 國

0986

6.3.13

6.3.12

430

ルニ印刷紙方案ノ通り新
 上版長田中盛秀
 三月十三日
 官廳
 5.15 技
 5.10 技
 6.2.10 技
 6.2.10 技

紙用箋附

大正六年三月廿八日
 海軍技術本部第三部
 本件電路接続箇ニ対シテ提出箇
 箇異存無之
 長田中盛秀

本件同意見

兼知被後

海軍省 郵政局

海軍省 技術局

0987

附箋

大正六年五月十一日
 海軍省機關
 禁之令等改正意見日付
 提出アリ既ニ軍艦檢査部
 相為結果存存アリ不
 戦阿圖船北ノ山城松森等
 備カシルニテ大ニ効果
 統果ク信テ余剛新設
 此際中野財七郎海軍省
 前叙ノ通り日決案アリ



リ新



附 箋 用 紙

大正六年三月廿八日
 海軍技術本部第三部
 本件電路接続圖一對提出
 通異有無之
 林 十内



本件同意見
 義知被後
 追分送付書
 海軍省
 艦政局
 陸軍省
 陸軍省

0987

附 箋

大正六年五月十一日
 海軍省 艦政局
 本件同意見
 提出之図
 海軍省 艦政局
 提出之図

0988

附 箋 用 紙

大正六年五月
 提出之図
 海軍省 艦政局
 提出之図

附 箋 用 紙

大正六年
 海軍省 艦政局
 提出之図

甲技術本部第三部

列シテ提出書

0987

(吉)

之件

大正六年五月十一日

海軍技術本部第三部

提出書

本提子令新設運轉ニ於テ山城
自レノ戦鬪運轉ニ於テ山城
扶桑艦ニ裝備セルモノノ實地効果ノ
比較研究ノ結果ヲ待リテ決定スル
コト、致度

0988

紙用箋附

大正六年 五月十八日

海軍技術本部第五部

提出書

本提子令新設運轉ニ於テ山城
自レノ戦鬪運轉ニ於テ山城
扶桑艦ニ裝備セルモノノ實地効果ノ
比較研究ノ結果ヲ待リテ決定スル
コト、致度

0989

(吉)



紙用箋附

大正七年十月十日

艦政局

海軍技術本部第五部

本艦隊運轉ノ結果大正六年三月
二日附横廠工第...号ノ...
提子令第五部新設...方認許

新官

新山

10.15
6.10.16

0990

紙 罪 案 起

大正六年三月廿七日起案

三月廿九日發付

三月廿九日發付

三月廿九日發付

三月廿九日發付

三月廿九日發付

三月廿九日發付

主務

艦政局長

第二課長

第三課長

官房第二科長

大臣

副大臣

參事官

第五課長

第六課長

軍務官

次官

參事官

參事官

第一課長

第二課長

軍務官

重慶海軍大臣
岡田元吉
大正六年三月廿七日

本原

海軍大臣

勝

第二課長

第三課長

第四課長

第五課長

技術本部長

副官

第四部

副官

第五部

第六部

第七部

海軍大臣

副官

副官

副官

副官

副官

大正六年三月廿九日

三月十六日海軍大臣第四号ノ三二一ノ二番軍艦駒橋

殺菌水製造器及機械消毒器新設件認許ス

(別圖を添付)

(終)

番

官房第八三四號上

海

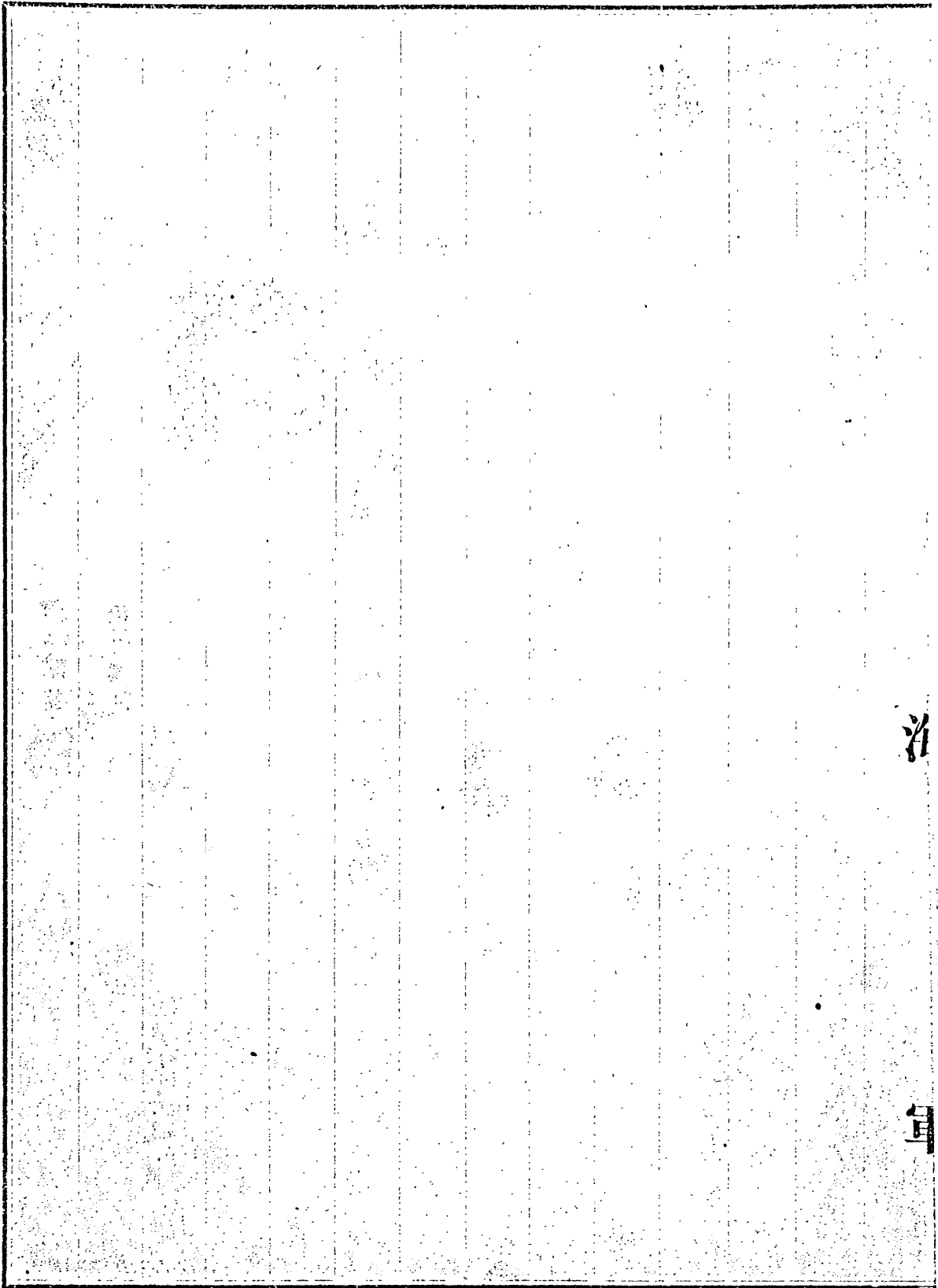
軍

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務官	官房	局部
													受月日
													發月日

6.3.28

6.3.28

0990



海

軍

泰原結

0991

艦政局

技術本部

第四部
副官

右
上
申
入

第四部製圖室

別紙
通及
二
軍方
按
重量
増減
表
の
橋
敷
水
造
造
表
を
添
付
す

軍艦の橋敷水製造器及機械汚毒器新設件
本件馬橋第一舞二四請求に依り現場調査の結果必要ト
認ノレ後三付別紙面及二軍方按書を通り新設方針ヲ

第二課
海軍大臣加藤友三郎殿

三月十七日

吳海軍工廠長
海軍少將淺野正

海軍工廠長代理

大正六年三月十一日

參謀長

參謀長

副官

6.3.19

三月十日

5.20

0992

3.19

紙用製附

3.19
20

三月十日

大正十一年

3.19

要

可

電

0992

5.20
42.73

紙用箋附

大正十一年三月十日

海軍技術本部第四部

魂可の如し認ふ

長

物

副官

田

0993

0-3

第四部

軍醫務施設整備室内殺菌水製造器機械消毒器新設三重方格書

一、別冊如左添置室内殺菌水製造器及機械消毒器ヲ携付セシム必要ナル
蒸気管水管等ノ設備ヲナスモノトス

二、入費概算 金六百。六四八拾元

内 敷
上 費 百 元
材料費百六拾元

付屬費四拾六四八拾元

三、工事日数 貳週間

四、重量増減表是別表ノ通り

①

海 軍

0994

寫

駒橋第一号二四

大正六年二月二十日 於吳

駒橋 廠長

吳工廠長先

鑲裝呂增設請求ノ件

従来外科機械並洗滌消毒器及殺菌水器ノ備付無之不便不勘故付之
際治療並改進ノ其ノ増設相成度

右 請求ス

(3)

吳工廠第一号二四

吳工廠第一号二四

海軍

55

0995

紙 罫 案 起

大正六年四月七日

日起案

四月十九日

發付

發付後起

案者大印

4.9.30

大臣 濟

次官 節

參事官

主務

艦政局長

第二課長

和越

八

第五課長

六

技術本部長

第四部

副官

福

經理官

勝 第二課長

福

本

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技術	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
								六四八				四月十日	

大正六年四月十九日
 三月廿六日自達達兵工第四号、四三四、申軍艦隊間
 申船裝置新設、件認許ス
 (別圖を添付)

號番

官房第九十四號

海軍

官

(統)

0996

第四部製圖室

A二

機務本部



社政

司令官



官房第九

副官

右

申

不

求書

通葉

添



軍艦淺間由船装置新設、件
本件別紙淺間第七第八二請求、依り現場調査、處
必要、下認、之、後、付別面、及、工事、方、按書、通、り、計、畫、處
條、御、認、許、相、成、度

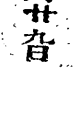
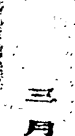
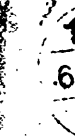
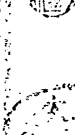
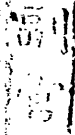
海軍大臣 加藤友三郎殿

吳海軍工廠長 伊藤乙次郎

大正六年三月廿三日



第四部



代

吳 6.3.23

臺

政 6.3.29

受

三月廿九

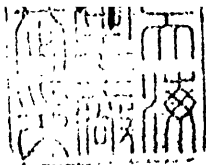
0998

大アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

調査係
調査係



鎮吳

6 3 23

郵便

政廳

6.3.29

支局

13

0998

紙 117

官廳受

三月廿九日

紙用箋附

大正六年四月廿一日
海軍技術本部第四部

福田

沈行

0999

A三

技術本

軍艦浅间丸船装置新設工事方格書 (造船部)

一 別面、如ク後上甲板に周六吋柔軟鋼線網敷條ヲ備ヘ何レも前部ヲ後部八寸
砲塔ニ壹回餘捲付ケ其一端ヲ「ボラード」ヘッドニ定著シ后端ニ「スリッ」ヲ

装備シ曳綱ハ本艦備付ノ周六吋柔軟鋼線網ヲ使用スルベトス

二 入費概算金千百八拾円

材料費七百円

内 工 費 千 百 円

付屬費百八拾円

三 工事日数 参考拾日

四 重量増減豫定 別表ノ通り

(3)

A
四

寫

淺間第七部八二

大正五年九月七日

淺間組長

吳之廠長先

機装品新板請求ノ件

品名	数	数量	摘要
実取用ハシモノ及基長	組	丸	実取用施上不便甚クシキ事

右請求ス

(1)

1001

紙 野 案 起

大正六年五月廿四日起案

起案者 捺印

五月廿九日發付

發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

(主務)

郵政局長

中野

第二課長

野村

村越

八位

大臣

齋藤

副官 犬南

犬南

第一課長

岡田

岡田

局員

次官 齋藤

參事官

齋藤

第五課長

齋藤

齋藤

齋藤

軍務局長

齋藤

第三課長

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

經理局長

勝

第二課長

勝

勝

勝

勝

技術本部長

福田

第四部

福田

福田

福田

福田

福田

第三部

福田

福田

福田

福田

福田

大正六年五月廿九日

海軍大臣

四月二十七日付進達兵工第四号一六二二上申軍艦

富士將校女子生寢室新設件認許

但し所要兵器等付于海軍省艦政局長手

號番

官房第一

三七の滯

五

五

局部	受月日	發月日
官房	五月廿八	
軍務	六月廿八	
人事		
醫務		
經理	六月廿八	
司法		
艦政		
技本		
造兵		
教育		
臨建		
水路		

6.6.2

6.5.31

6.5.26

5.25

6.5.2

6.25

1002

通帳せしめ

別冊の巻尾

東京府立総合資料館
技術図書部
蔵書印
大原

明治三十四年三月三十一日
北村正三郎
係長

終

大原納

1003

總政局

技術本部

第四部
第三部
副官

興工第四號ノ六三ノ

大正六年四月廿六日

四月七日進達

吳海軍工廠長伊藤乙次郎

海軍大臣加藤友三郎殿

軍艦富士學生寢室新設ノ件

本件富士第三群ノ請求ニリ現場調査ニ必要ト認メラレ候ニ付別番及ニ事方按書ノ通り計畫候條御認

許相成度

別番四葉ニ事方按書ニ通

重量増減豫定表一通本艦請求書一通

官房第一三七〇號

技三圖第4287號

一三七〇号ニ下

謀長

參謀

6.5.21 技三接受

技三 6.5.21 6.5.21

6.5.1 技三

紙用箋附

紙用箋附

1004

大正六年

本件 大正 阿波 燈台 隔壁 燈台 接續 燈台

艦政局

技術本部

第四部
第三部
副官

皇工第四號ノ六三ノ

大正十四年四月廿六日

四月七日進達

第二課 海軍大臣

第一課

海軍艦富士

本件富士第二舞ノ口注

認ノラレ候ニ付別圖及之

詳相成度

申不

別番四廿

重量増減豫定表一通本紙請成書一通

官房第一三七ノ號

海軍第4287號

一三七〇年ニト

參謀長

參謀

副官

6.5.21

6.6.3

6.4.27

6.5.1

要
御
認

3. 3
紙四

紙用箋附

1004

政
6. 5. 1
安

紙用箋附

大正六年五月三日

海軍技術本部第三部

本件具在奥之所要兵器ノ由

燈台灯 四柄
隔壁灯 七面
接續燈 四柄

大正七年五月九日

海軍技術本部第四部

本件係何ノ由

1006

1007

6.5.1

1004

紙用箋附

大正六年五月三日

海軍技術本部第三部

本件具存與之所要兵器七通

独台灯 四個
隔壁灯 一面
接續座 四個

大正六年五月八日

海軍技術本部第四部

貴部は意見見定給へる所を以て

取付局に申す



1007

D2

軍艦富士将校學生寢室新設工事方按

(造取部)

海軍

一、別番ノ如シ中甲板後部艦長士官将校学生等ノ浴室ヲ取拂ヒ
士官浴室跡ニ厨事事務室ヲ移動シ其等ノ取拂ヒルニ薪室ノ跡ヲ
将校學生寢室ニ充テ各室合計七人ノ學生ヲ收容シ得ル寢室
机其他必要ナル設備ヲ施スモノトス

二、入費概算金九百四拾四円

材料費四百五拾円

内訳

工費 費 参 百 五 拾 円
付屬費 百 四 拾 四 円

三、工事日数 貳拾五日

四、重量増減係定 〇噸三七増加

(丁)

海軍

軍艦富士将校學生寢室新設に伴う水雷部所掌工事方格
一工事方格

造船部計画通り諸室改造に伴う別箇ノ如ク電灯ノ増減配備換ヲ
行フ

一兵器

兵器		所要兵器員数表	
符號	品名	帳簿数	所要数
△	カクト灯 丁	一 一四個	四個
●	合 両面	六個	一個
○	隔壁灯 片面	六 五個	一個
□	燭台灯 乙	七個	四個
			不要数

D
4

		⊗ 機銃台小		二五何		四何	
備考		所要兵器の配給ヲ要ス					
一 工事費豫算							
工費		材料費		附属費		計	
二八〇〇〇		二五〇〇〇		一三二五〇		六六二五〇	
二 工事日数							
造船工事完了后五日間							
(別掲富路又二枚添)							
3							

海
軍

1010

軍富士第二號一〇

大正六年一月二十五日

月日
口
被
二
十
五
日

富士艦長

吳工廠長宛

船体部改造請本ノ件

一 艦長浴室

壹ヶ所

二 孝生浴室

壹ヶ所

三 厨室事務浴室

壹ヶ所

右三ヶ所、官機室ヲ備、付テ孝生浴室ニ改造ヲ要ス

四 士官浴室

壹ヶ所

右厨室事務浴室ニ改造ヲ要ス

又左舷中号ノ六二

基盤富士第二号ノ五

1011

理由 右在添室、目下、任務現況に於てハ使用を以テ何等不便又感
ズ大空等、不事ナリ然レ一方本艦に豫備私室少ク本生ニ宿舎ヲ與フ
ル事能ハズ現存少佐、本生ニ的床ヲ使用セシマテ、従来本艦本生ハ
既ニ長ク士官室ニ在リシモノ多ク又艦内諸作業ノ教授及研究ノ必要
上本生ヲシテ艦内ニ起居スルヲ不尚トスヘキ本艦に於テハ宿室ヲ與フ
ルヲ必要ト認ム

右 請 亦 ス

(7)

1012

紙 郵 案 起

一五上

大正六年五月廿四日起案
 起案者 徐印
 五月三十日發付
 發付掛 徐印
 發付後起 案者徐印

主務
 大 次官
 參事官
 副官

總政局長
 第二課長
 第三課長
 第四課長
 第五課長

軍務局長
 第課長
 局員

総理局長
 第二課長

技術本部長
 第四部
 第五部

副官

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	儲政	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	受月日	六五廿九											
發月日													

大正六年五月三十日
 五月二日付達 皇工第四号 / 五十八上申 軍艦
 駒橋二十八吹内公帳新設ノ件認許ス

番号
 官房第一四三三號

別回以業(原)

(統)

五
 政總 6.5.20
 三政補 6.5.2
 受付

1013

5.28

(10) 上

(備)

本行 既立 / 塔母

25 小島 将一、26 カタノ

20、4、23 田原

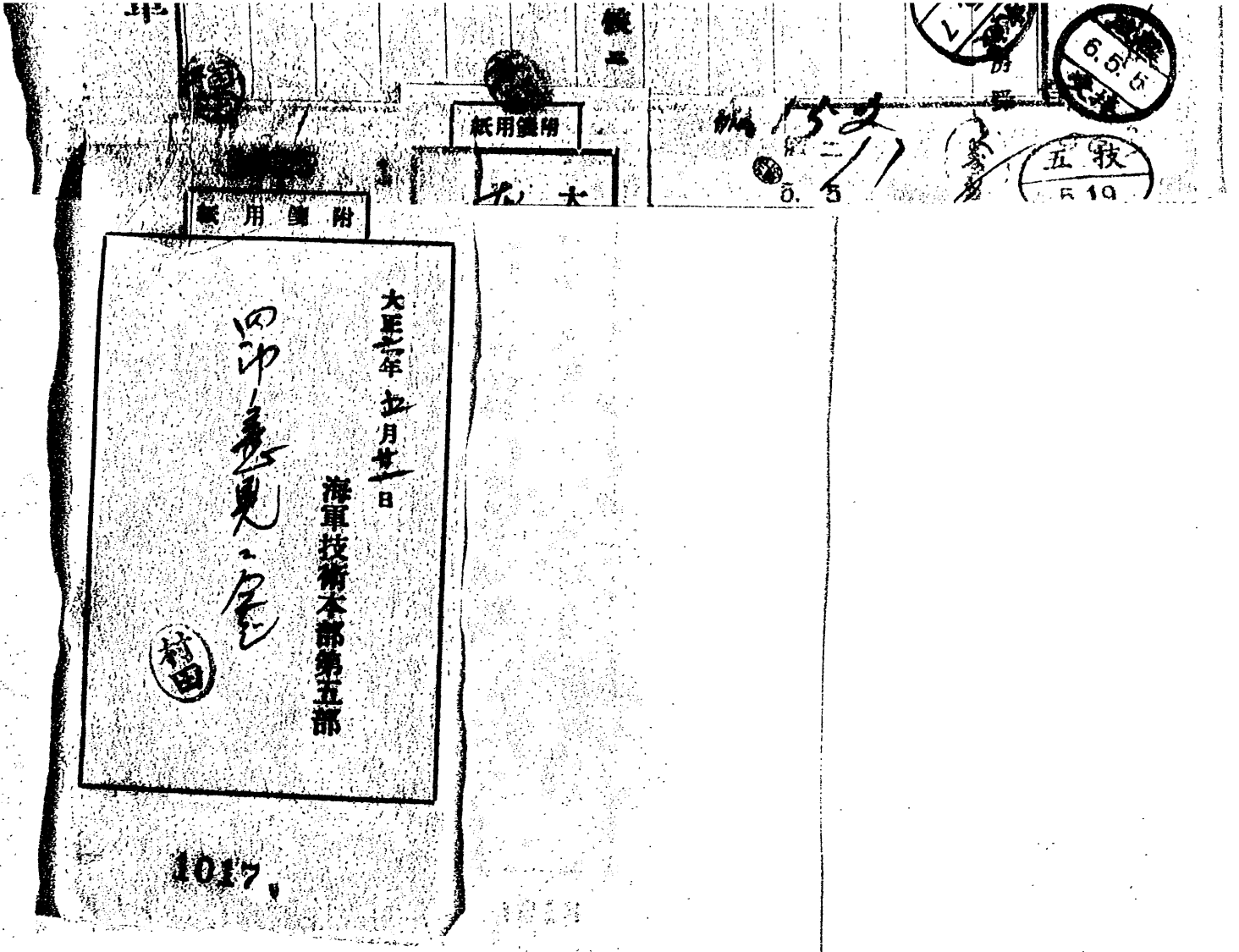
如 既 / 兼 陣 名 取 (社 合 会) 三 村 三 郎 一 氏

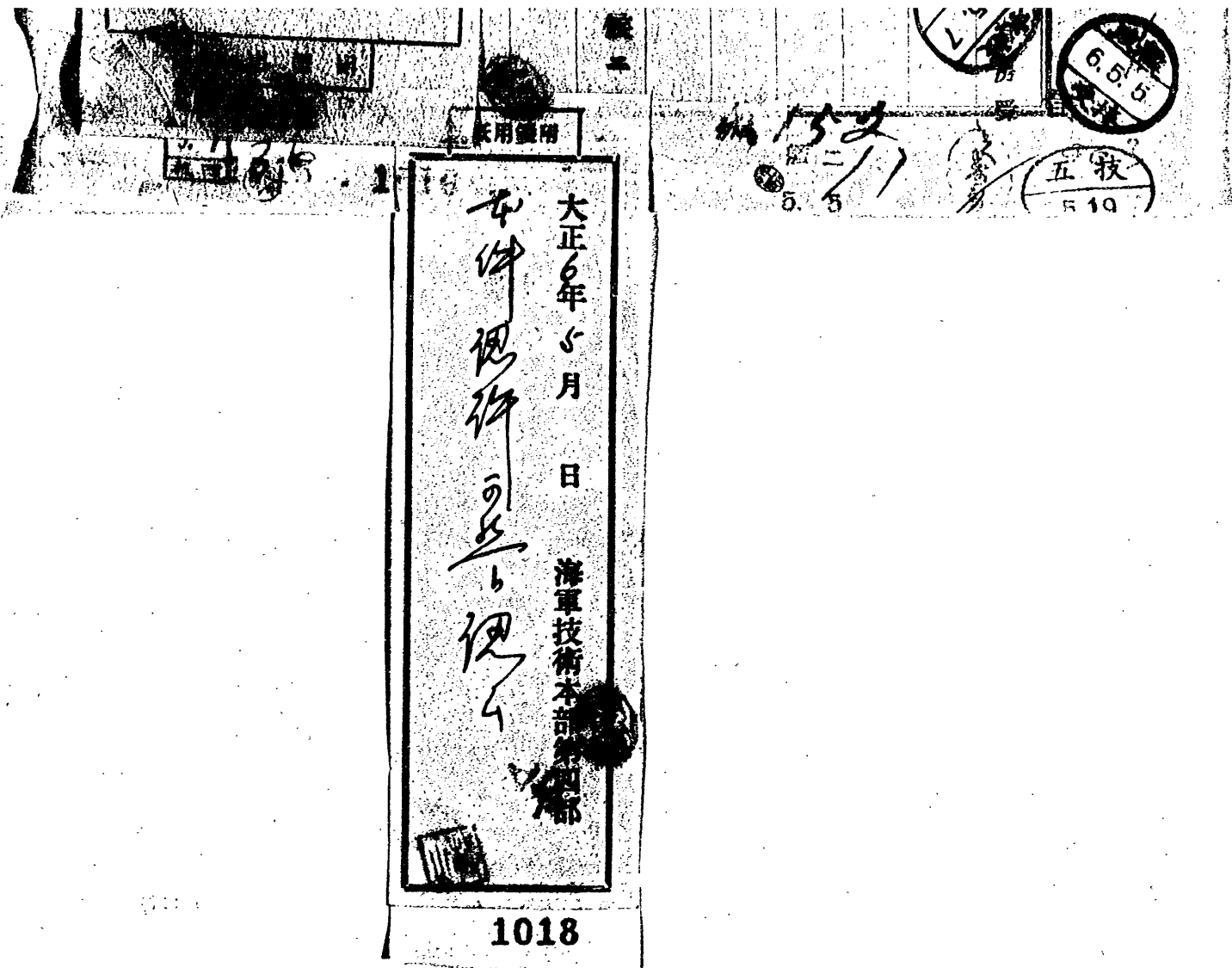
カ 又 / 長 備 三 郎 申 上 子 持

故 本 上 申 / 内 了 塔 没 三 郎 三 郎 三 郎 三 郎

一 院 橋 高 十 八 合 一 院 末 了 申 上

(塔)





軍艦駒橋二十八呎内火艇新設工事方案書

一、別圖ノ如ク二十八呎内火艇一隻ヲ新造シ現在左舷ノ二十三呎通船ノ位置ニ搭載スルモノトシ二十三呎通船ハ「ダビット」ト共ニ右舷ニ移シ二十呎及二十三呎通船ハ重ネテ搭載シ亦上甲板兵員室前部右舷ニ石油格納所ヲ設クルモノトス

二、入費概算金六千二百六十九圓三十四錢

内譯	區分	
	造船部所掌	造機部所掌
材料費	千三百二十三圓	二千六百六十圓
工費	九百二十圓	四百十圓
附屬費	四百〇三圓七十四錢	五百五十二圓六十錢
合計	二千六百四十六圓七十四錢	三千六百二十二圓六十錢

三、工事日数

造船部所掌

造機部所掌

一箇月間

四箇月十五日間

四、重量増減 別表ノ通り

四〇

字

駒橋第一號八四

大正五年十月十七日

駒橋艦長

吳工廠長宛

機装品増設請求件

目下下士卒備人先員母艦九十三名艦隊(三隻ヲ)六十九名ニシテ母艦先員不足ナル爲メ約十名ノ増員ヲ上申中ノ事トテ合計百七拾二名トナリ半艦上陸等ノ際ハ現在ノ短艇ニテ不足ナルヲ以テ老ノ通り短艇ヲ増設相成度

一、三十八呎カッタシ内火艇一隻ヲ増加スル事

二、若シ重量等關係上現在ノ右三十八呎カッタシ内火艇ヲ増

加スルヲ能ハガレハ現在ノ小蒸汽ヲ療シテ吹カケル内火機ヲ以テ
代ヘ又現在ノテ大吹カケルヲテ八吹カケル内火機トナスト

内火機裝備ノ理由

潜水艇ノ魚雷發射ニ方リテ監視並ニ採取用トシテ汽機一隻ノニテ
ハ不足ヲ感ズルノニテ又潜水艇隊ノ雜用ニ機動艇ヲ要スル下基カ
時ニ今後ニ度々潜水艇ヲ受持ワトキハ極メテ手穩ナル港ニ在ル外
一隻ハ常ニ錨泊セラルベカラサルヲ以テ一層往復其他ニ必要ナリ
大波浪アルハ遠距離ヨリ上陸員ヲ送迎スルニ傳馬船ニ多人數ヲ搭
載スルハ甚カシク危険ニ付是非共カワタル内火機増加ヲ以テ
認ム

右請亦ス